

## クルアンの保持 (1/2) :暗

5.0

明:  
ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）の代におけるクルアンの暗 と、今日の何百万人ものムスリムたちによる暗 について。

目:[事イスラムの真性を示す数々のクルアンの信性と其の保持](#)

目:[事クルアンの信性と其の保持](#)

より: [iiie.net \(IslamReligion.comによる 集\)](#)

E06 Dec 2009

集日 18 Aug 2013



ムスリムの典であるクルアンは、天使ガブリエルを介して言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）にアラビアを介して示されました。それは23年に渡って断的に下され、には短い々で、そしてには一章の形で示されました。

逐的に“むもの”または“朗されるもの”という意味を持つクルアンは、“アハディス”（逐的に“知らせ”、“告”または“承”）と合的に呼ばれ、クルアンとはに保持されて来た言者ムハンマドの言行（スンナ）とは全くのものです。

言者は示を受けるに当たり、彼の使命であるその内容のにめました。それは彼の教友たちに、彼のいた全く同じ内容を、全く同じ番に返して朗することでした。こ

れは、彼が自分自身に して向けられている言 を含めていることから明らかです。例  
えば、“クル”（

“ [ムハンマドよ、人々に して] 言え）などがその好例でしょう。クルア ンの律 的な  
文体と表 の かさは、暗 を容易にさせます。そして神は、それこそがクルア ンの保 と に  
おける重要な要素の一つであると述べられています（クルア ン44: 58、54: 17223240  
）

。特にアラブ社会においては、い 文の朗 は彼らにとって るべき文化だったのです。マ  
イケル ズウェットラ はこう しています：

“文 の使用が殆どなかった古代では、 と口 による が行なわれ、それは 代においては想  
像のつかない程の高度なレベルにまで していたのである。[2](#)”

それ故、言者の共同体における多くの人々により、示の大半は容易に されたのです。

言者は彼の教友たちに し、示された 々を学んで他者に するよう 励ましました。  
またクルア ンは崇 行 として、特に日 礼（サラ）の中で定期的に朗 することが求められ  
ます。これらの手段によって、彼に下された 示の内容は大 によって り返し かれ、暗 さ  
れ、礼 で朗 されたのです。クルア ンはその一字一句において、まるごと教友たちによ  
って暗 されました。その中にはザイド ブン サ ビト、ウバイ ブン カアブ、ムア ズ ブン  
ジャバル、そしてアブ ザイド[4](#)が含まれています。

またクルア ンの一字一句は に暗 されただけでなく、その 音に しても、 に 展したタジュ  
ウィ ド学の 音法と共に保存されています。この学 は、それぞれの文字と が文 上いかに  
音されるべきかを めて明瞭にするものです。私たちは今日においてもあらゆる言 の 者  
が、まるで 言者の 代に生きていたアラブ人のようにクルア ンを朗 するのを 出すことが  
出来ます。

更には、クルア ンの章句の配列は 言者によって指 されており、教友たちにも良く知ら  
れていました。[5](#)

また 年ラマダ ン月（ヒジュラ 9月）には、天使ガブリエルによって、それまでに 示され  
た全クルア ンが朗 され、言者はかれのあとに いて朗 し、教友たちの何人かもそこに同

伴していました。[6](#)

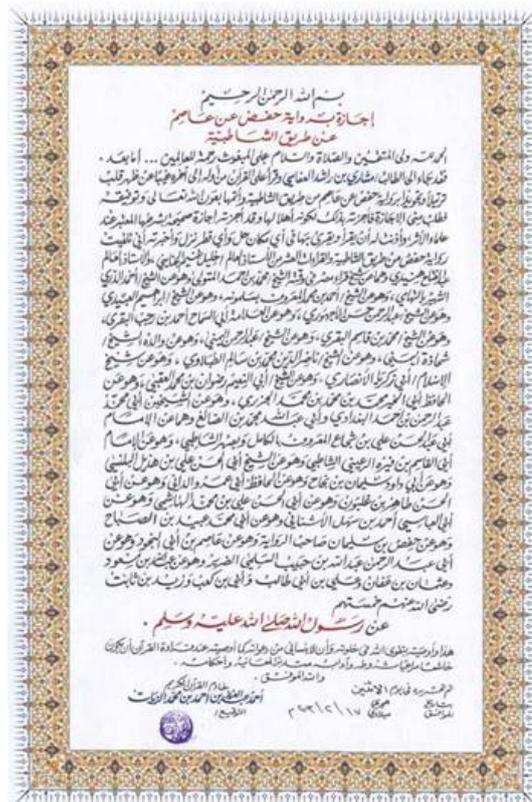
また彼が逝去する前のラマダン月には、ガブリエルは全クルアーンを二回返して朗  
ています。[7](#)こうして各章、各々の配列は教友たちの 手に されて留められたのです。

教友たちは 々な地域や国家に 散していった に、その地の人々に教えることが出来るよ  
う、朗 法を携えて行きました。[8](#)

そうすることにより、 手に及ぶ各地の人々が同じ方法でクルアーンを朗 することの 手に成  
功したのです。

手に、クルアーンの暗 は何世にも渡って なる として、ムスリム世界の学校 手に 手に伴って教  
えられて来ました。[9](#)

これらの学校で、生徒たちはクルアーンの暗 をタジュウィドと共に のもとで学びました  
。そして彼らの もまた、その から へと辿って行くと、その知 の源を神の 言者にまで  
、途切れのない相 の系 に名を ねているのです。クルアーン 得の 程は通常3年から6年程か  
かりました。熟 をめ、朗 における 手が いかをチェックされた 、生徒は免 状（イジャザ  
）を渡され、朗 法の熟 性と、神の 言者が行なった通りの朗 が可能であることを 明され  
るのです。



この写真はクルアーン朗を 得させた に 行される、言者ムハンマドまでの系 が明らかにされた一般的な免 状（イジャザ）のもので、これはシャイフ アハマド アッ=ズィ ヤにより 行された、クウェ ト出身の著名な朗 者であるマシャ リ ブン ラシ ド アル=アフアス のものです。写真提供: <http://www.alafasy.com>

非ムスリムの 洋学者であるA.T.ウェルチは しています:

“ムスリムにとってのクルアーンとは、一般的な西洋的 による 典 典とは一 を画するものである。 倒的多数にとっての数世 にも渡るその主な重要性とは、その口述形式であり、それはムハンマドによって彼の教友たちへおよそ20年にも渡り唱えられたものと同じ元来の形式である 示はムハンマドの教友たちの一部によって彼の存命中に暗 され、合によってはクルアーンの写本からは独立して、または 先され、それ以来は口述の として 立されたのである そして何世 にも渡り、朗 家（クツラ ）によって口述の は 持されてきた。つい最近まで、西洋においてクルアーン朗 はほとんどと言って良い程その を められていなかった。” [10](#)

クルアーンは恐らく宗教的、世俗的にみても、数百万人もの人々によって暗 されている 唯一の でしょう。[11](#) 洋学の先 、ケネス クラッグはこう述べています:

“ このクルアーン朗 の 象は、その原文が数世 の を超えて途切れること く、我々に生きた形でムスリムたちの献身を示してくれている。それ故、それは古物研究として われるべきでなく、また い 去の 史的文 として われるべきでもないのだ。すなわちヒフズ（クルアーン暗 ）の事 は、 の を超えてクルアーンを 在形でムスリムの所有とし、また全世代が共有する とし、それをいかなる 威によって格下げされることをも さないのである[12](#) ”

---

## Footnotes:

[1](#) ムハンマド ハミ ドウツラ ,Introduction to Islam,ロンドン: MWH Publishers 1979年,17 。

[2](#) マイケル ズウェットラ ,The Oral Tradition of Classical Arabic Poetry,Ohio State Press,1978年,14 。

[3](#) サヒ フ アル=ブハ リ ,6 ,546番。

- 4 サヒフ アル=ブハリ ,6 ,525番。
- 5 アハマド ヴォン デンフェル,Ulum al-Quran,The Islamic Foundation,英国, 1983年, 4 1 4 2 ,アサ ジェフェリ for the History of the Text of the Quran,Leiden:Brill,1937年,31 。
- 6 サヒフ アル=ブハリ ,6 ,519番。
- 7 サヒフ アル=ブハリ ,6 ,518,520番。
- 8 イブン ヒシャム, 言者 ,カイロ,n.d.11 ,199 。
- 9 ラビ ブ アッサイド,The Recited Koran,モロバガ ,A.ラウフ,バナドワイス,プリンストン: The Darwin Press
- 10 イスラム百科事典, “The Quran in Muslim Life and Thought.”
- 11 ウィリアム グラム,Beyond the Written Word,イギリス: Cambridge University Press,1993年,80 。
- 12 ケネス クラッグ,The Mind of the Quran,ロンドン: George Allen & Unwin,1973年,26 。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/19>

著作権 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。